2015.1 No.22

たてやま おらがんまっち

南総祭礼研究会

館山市西岬地区見物 海南刀切神社（かいなんなたぎりじんじゃ）

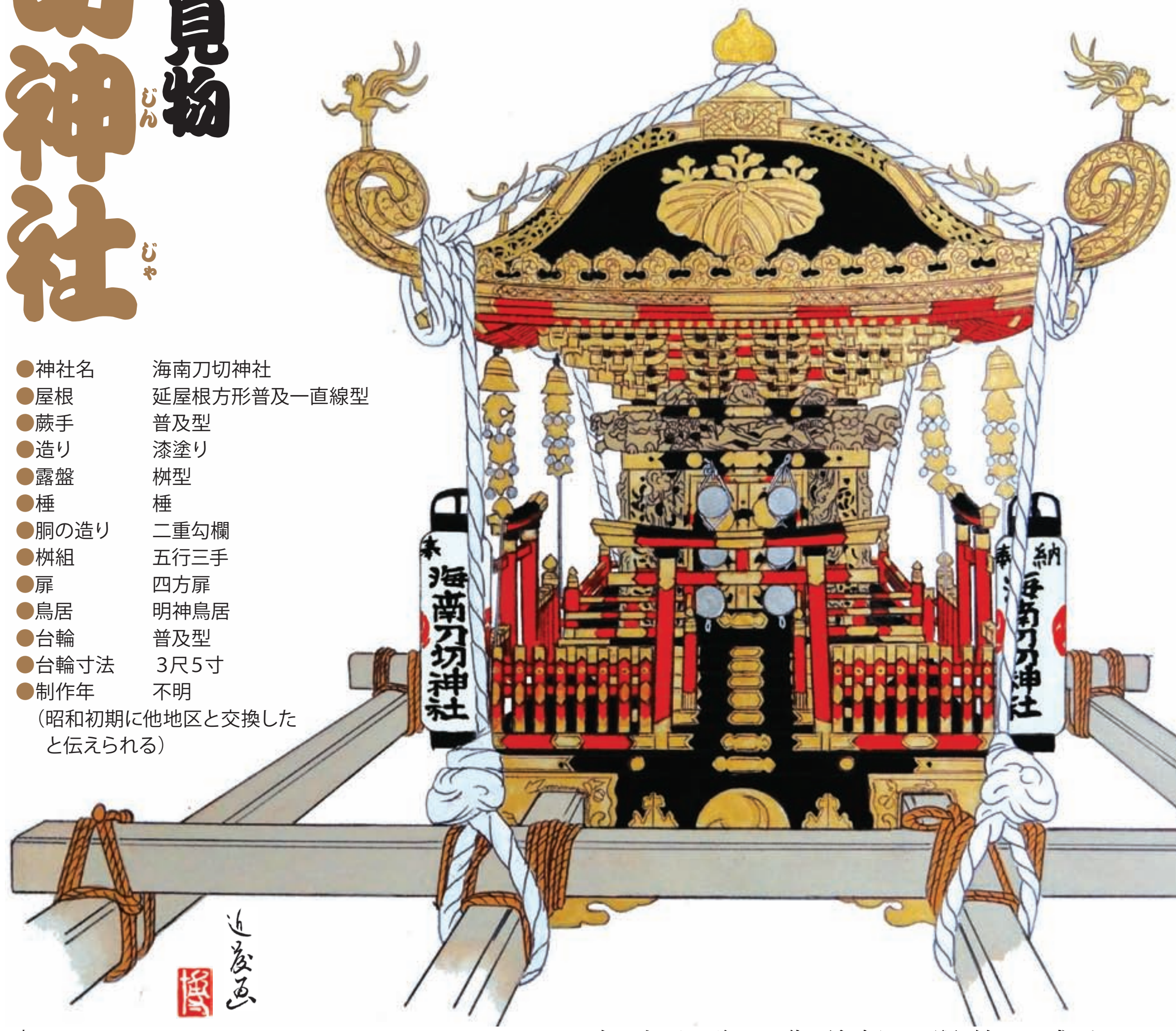
海南刀神社の本殿裏にある二つに割れた巨岩

地域の紹介

「高さ5メートルもあろう大岩に垂直に走る一閃の切れ目」。見物地区に鎮座する海南刀神社の本殿裏にある二つに割れた巨岩には、その昔神様が手斧で切り開いたという伝説が残ります。

東京湾に突き出た西岬地区の中心地である見物地区には、明治二十二年の西岬村誕生から昭和二十九年館山市との合併までの村制時代にはモダンな庁舎であった西岬村役場が置かれていました。その他にも明治十三年創設の郵便局や農協があり、沿道にはパチンコ屋や団子屋が並び賑わいを見せ、また地区内にはたばこの乾燥工場もあり、たばこの生産が行われていた時代もありました。

「見物」の地名の由来は、その昔刀切大神が三浦半島より上陸した際に、村人総出で見物し出迎えという説他ありますが、それらの由来どおり岬の灯台へとつながる海岸からの眺めは抜群で、農業、漁業に加え、南房総国定公園区域の指定から観光にさらなる力を入れ、新たな発展を目指しています。



- ●神社名　海南刀切神社
- ●屋根　延屋根方形普及一直線型
- ●蕨手　普及型
- ●造り　漆塗り
- ●露盤　桝型
- ●棰　棰
- ●胴の造り　二重勾欄
- ●桝組　五行三手
- ●扉　四方扉
- ●鳥居　明神鳥居
- ●台輪　普及型
- ●台輪寸法　3尺5寸
- ●制作年　不明（昭和初期に他地区と交換したと伝えられる）

金箔の飾りと彫刻で埋められた美しい大殿の装飾

自慢の神輿

見物地区は、大殿、中殿、小殿と三基もの神輿を擁し、神社の境内にその三基の神輿が並ぶ姿は圧巻です。大殿の神輿は朱色と黒に染められ、全体が無数の金色の飾り細工に覆われており、屋根の四隅には鳳凰が配され、中央には五七の桐紋が光ります。神輿の威容と担ぎの機動性に配慮された大きさの神輿には、地区外からも毎年多くの担ぎ手が駆けつけます。

白木作りの中殿には、柱や軒面をはじめ数多くの彫刻が所狭しと並んでおり、長い時代を経た趣が漂っています。

小殿は、金、赤、黒の配色で珍しい唐破風造りの屋根になっており、最近では地元の小学校の生徒に声をかけ皆で担がれる人気の神輿です。

大殿、中殿、小殿と三基の神輿が並ぶ